

# 強者の戦略

こんにちは、地理担当の南です。地理の出題としては5回目になります。今回は、今年度の入試問題の中で都市に関する良問が首都大学東京で出題されたので、その問題を扱いたいと思います。高3のスタートしたこの時期ではなかなか解けないと思いますが、1回考えてみて下さい。首都大学東京の問題は東大に近いので、東大志望者は特に見ておいて下さい。

問題 大都市圏の人口の動向に関する次の問い(問1～4)に答えなさい。[首都大学東京 2010年]

問1 次の図1は、1960年から2003年の東京大都市圏における都心(東京23区)と郊外(区部を除く東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)の自然増加と社会増加を示したものである。この図から、郊外の人口増加には、1970年前後と1980年代後半の2つのピークがみられるが、これら2つの時期の人口増加の性質の違いについて、2つの図を関連付けながら述べなさい。

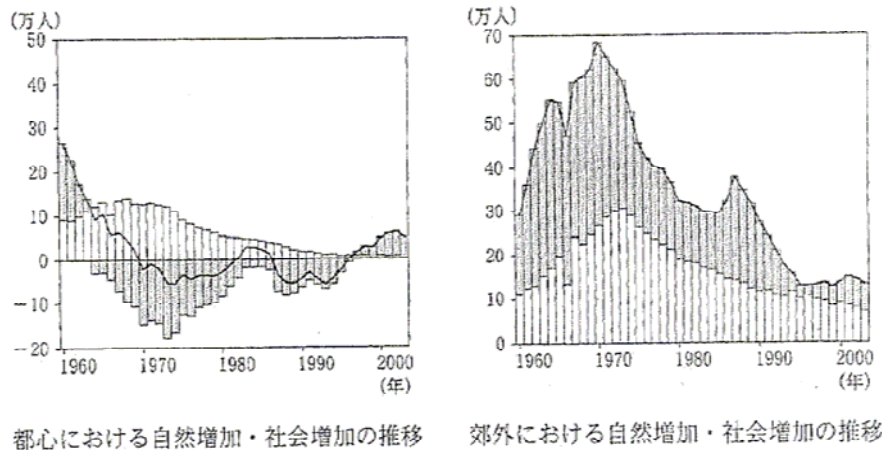


図1 1960年から2003年の都心と郊外における人口増加の推移  
白の棒が自然増加、グレーの棒が社会増加、線グラフは人口増加をそれぞれ表す。

- 問2 図1では、都心でマイナスだった社会増加が、1990年代後半からプラスに転じている。その原因として考えられることがらを述べなさい。
- 問3 図1のように都心で人口が増加する傾向が続くと、都心ではどのような影響が予想されるか。良い影響と悪い影響を、それぞれ二つずつ挙げなさい。
- 問4 郊外でも人口が減少している地区が少なくないが、その理由とそれによって生じる問題点について、具体例を挙げながら説明しなさい。